

令和 7 年度

「運営に関する計画」



大阪市立神津小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立神津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の現状から課題として、学力の向上と自己肯定感が低いことが挙げられる。

学力の向上においては、昨年度までの4年間、国語科を研究教科として校内研究を進めてきた。国語科の授業研究を中心に各授業において主体的・対話的な学びを取り入れ、タブレット等のICT機器を活用するなど創意工夫した指導の取り組みをおこなった。小学校学力経年調査における標準化得点において全学年(3年～6年)で昨年度の結果を上回ることができた。また、大阪市・全国比においても、全学年のほぼすべての教科において、上回ることができ、昨年度よりも良い結果となった。4年間の国語科の研究成果だと考えられる。

課題として、昨年度一定の成果を表すことができたが、学力の向上においては、個々の課題解決や、主体的・対話的な学びをさらに深めていきたいと考える。そのために継続して、児童一人ひとりに合わせた指導を大切におこなう。学校教育アンケートの「授業がわかりやすいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は前年度95%であり、さらに高いポイントを維持できるよう、教員の授業力向上と授業改善に努めていく。放課後学習、ICT機器・タブレットを活用した授業、専科指導の充実など工夫改善にも努めていく。教職員の指導力向上のため、全員が校内での授業公開をおこない、児童にとって『わかりやすい授業』、主体的・対話的、より深い学びにつながる授業研究を進めていく。

また、自己肯定感の向上が、引き続いての課題である。学力経年調査アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の問いに対して肯定的な回答が81.1%【昨年度79.2%】学校教育アンケートでは83%【昨年度87%】であった。ここ数年80%は超えているが、そこからの向上が課題である。学校生活の中でも、子どもたちは自己肯定感の課題から、自分も友だちも認め合うことが難しく、けんかになったりトラブルになったりすることがある。そこで今年度は、国語科でできるようになってきた交流の力を生かして、自己肯定感を高めていけるよう学級活動の研究に取り組む。『自己肯定感を高め、よりよく生きようとする子どもを育てる～学級活動を中心に、互いに認め合える集団作りを通して～』を研究主題に設定し、学級活動・道徳の時間をはじめ、話し合い活動の中で、子どもたちが互いに尊重し、よさを認め合える人間関係をはぐくむことができるようにしていく。

その他、昨年度より取り組んでいる規則正しい生活習慣を身に付けさせるための、睡眠時間やスマホ等の使用時間について生活チェックを今年度も継続して実施し、心身の健康を図り、学習意欲に結び付くように取り組んでいく。

学校ホームページ等による情報発信、地域や保護者・ホーム、関係諸機関等との連携を引き続き深め、子どもたちを取り巻く環境の安心安全を「Team神津」として進めていく。

最後に、よりよい教育を進めていくためには、教職員が心身ともに健全であることが大切であり、時間外労働の軽減・休暇の取得等を促進させるなどの働き方改革推進プランを継続して推進していく。昨年度は、教職員の勤務時間外軽減を進めることができた。今年度も引き続き、業務改善の工夫と教職員の意識改革を進めていくことを大切にして、教職員が心身ともに健全で、子どもたちのよりよい教育環境づくりに取り組めるようにしていく。

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.3%以上にする。

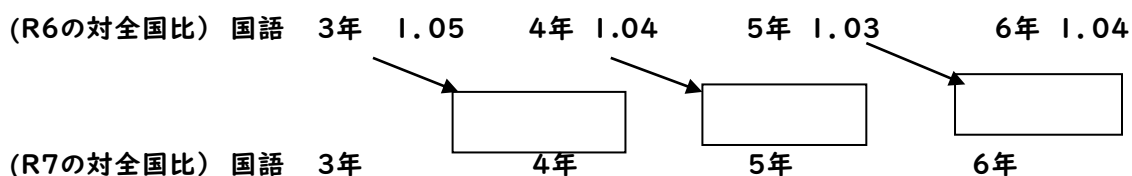
R6 87.1%

- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.2%以上にする。

R6 81.1%

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.01ポイント以上向上させる。



- 小学校学力経年調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より1%以上向上させる。

(R6経年調査アンケート) **77.2%**

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

【ICTの活用に関する目標を設定する】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)

※R6 約60%

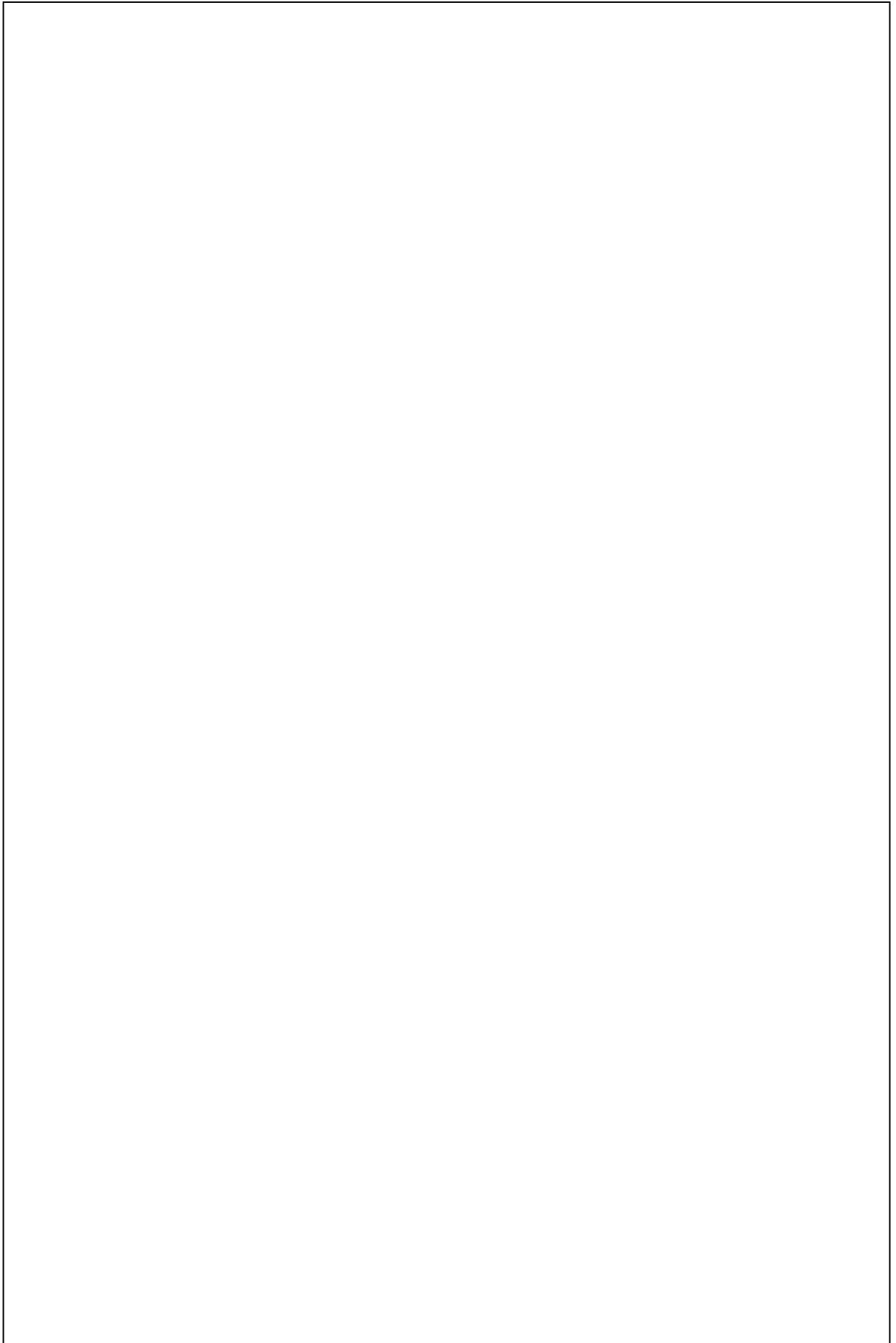
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度より1%以上向上させる。

※R6 71%

- 児童1人あたりの年間貸し出し冊数を前年度より上回る。

※R6 神津→53冊

3 本年度の自己評価結果の総括



(様式2)

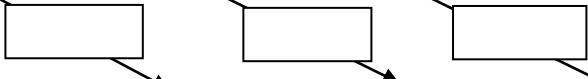
大阪市立神津小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.3%以上にする。</p> <p>R6 87.1%</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.2%以上にする。</p> <p>R6 81.1%</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>課題のある児童と重点的に関わり、毎日、その児童の状態をチェックし、前向きな感情の共有・感情のラベリング支援を通じて児童の心を耕すように努める。</p> <p>指標 毎日心の天気を活用する。さらにいいところ見つけも活用し、学級の様子を共有する。課題の早期発見と課題に応じた対策を行うことができるようにする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の学習時間をはじめとして、学級指導等あらゆる機会を通じて自己肯定感を高めるような取り組みを行う。</p> <p>指標 各学年が朝の会や終わりの会、学級活動等の取り組みの中で、自己肯定感を高める活動を行い、学期ごとに学校全体で交流する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会活動をはじめとする学校教育活動を通じて、児童が主体的に活動できるような集団づくりに取り組む。</p> <p>指標 児童が主体的に楽しく取り組める活動を各学年2回、学校全体として10回以上行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
後期に向けて

(様式2)年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.01ポイント以上向上させる。</p> <p>(R6の対全国比) 国語 3年 1.05 4年 1.04 5年 1.03 6年 1.04</p>  <p>(R7の対全国比) 国語 3年 4年 5年 6年</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より1%以上向上させる。</p> <p>(R6 経年調査アンケート) 77.2%</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の意見や考えを書いたり話したりして、伝え合うことができるよう、各教科や領域で話し合い活動を行う。 ・基礎学力が定着するよう反復練習を行う。 <hr/> <p>指標 ・学校アンケート「友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりしています。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を45%以上にする。 前年度 43%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回「漢字の日」を設定して前学年の漢字を復習したり、漢字検定を活用したりして、反復練習を行う。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や授業公開、その後の意見交流を通して、教職員の授業力向上に取り組む。 <hr/> <p>指標 ・研究授業や公開授業を20回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、さまざまな研修会を実施する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童のよりよい生活につなげるための取り組みを行う。 <hr/> <p>指標 ・児童が自分の生活を見つめ、規則正しい生活を身に付けることができるよう、継続的に声掛けをし、年2回、生活チェック習慣の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力保持増進のための場を設ける。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
後期に向けて

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) ※R6 約 60%</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度より1%以上向上させる。 ※R6 71%</p> <p>○児童1人あたりの年間貸し出し冊数を前年度より上回る。 ※R6 神津→53冊</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 さまざまな教科でICTを活用した学習を推進する。</p> <hr/> <p>指標 児童の実態に応じて、さまざまな教科で週2回以上（年間80回以上）学習者用端末を活用した学習を行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の労働時間の軽減を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画会の前に部会を設け、複数人で案件を確認し、全体の会議の時間をできるだけ短くする。 ・ゆとりの日を週1回設け、勤務時間を意識する。 ・学習参観前日は、ノー会議デーを設け、放課後の時間にゆとりをもつ。 ・校務の情報化を進めていく。 	
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 読書記録をつけ、読書をする習慣をつける。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「本を読むのが好きです」の項目で肯定的な回答の割合を昨年度より1%以上向上させる。 R6：74% ・読書や調べ学習等で図書室を活用する。 ・読書した本や、絵本のくんにの方に読んでもらった本を記録する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
後期に向けて